

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 9 月 14 日 (2006.9.14)

【公開番号】特開 2005-215136 (P2005-215136A)

【公開日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)

【年通号数】公開・登録公報 2005-031

【出願番号】特願 2004-19635 (P2004-19635)

【国際特許分類】

G 0 3 G 9/113 (2006.01)

G 0 3 G 9/08 (2006.01)

G 0 3 G 9/107 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 9/10 3 5 2

G 0 3 G 9/08 3 6 5

G 0 3 G 9/10 3 5 1

G 0 3 G 9/10 3 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 7 月 27 日 (2006.7.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

本発明のコート樹脂としては、シリコーン樹脂が表面張力の調整がしやすく、キャリア表面へのスเปント現象が生じにくいので好ましい。シリコーン樹脂は、構成分子の主鎖がポリシロキサン構造であるシリコーン樹脂であって、このようなシリコーン樹脂の代表例としては、下記一般式 (1) で示されるポリシロキサン構造のものが挙げられる。また、一般式 (2) のような Si - O - Si 結合を主鎖とする 3 次元網状構造のオルガノポリシロキサンを含むものでもよい。その中でもジメチルポリシロキサン系シリコーン樹脂、及びメチルフェニルシロキサン系シリコーン樹脂が好ましい。さらにまた、摩擦帯電性の調整等のため、必要に応じて変性したシリコーン樹脂を用いてもよい。変性シリコーン樹脂としては、アルキド変性、ウレタン変性、エポキシ変性、アクリル変性、及びポリエステル変性等がある。シリコーン樹脂は分子量や電気抵抗等の諸特性を多様に調整することが可能であり、また多種多様なものも市販されている。本発明では、これらの市販品を適宜選択、併用し、さらに熱処理条件を選定することによっても目的とする表面張力や他の特性を有するものとすることができる。本発明に使用可能なシリコーン樹脂としては、例えば、信越化学社製の商品名：ストレートシリコーンレジン KR 2 1 1、KR 2 1 2、KR 9 2 1 8、KR 2 5 1、KR 2 5 5、K 1 1 4 A、シリコーンゴム KR 1 1 4 A 等が挙げられる。